

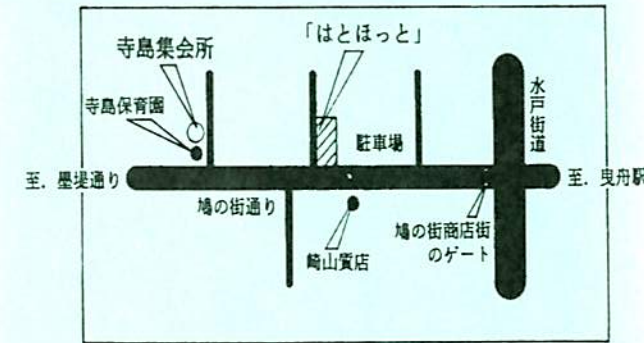
はとほっと



▲はとほっと全景

オープン

一言会と鳩の街商栄会が協同で検討してきた東向島一丁目25番まちづくり用地の整備がこのほど完成しました。「一寺言問の道」づくりのモデルパークとして位置づけられたこの広場は、商店街に位置しており、藤棚と植之込みを背にした路地尊茶5号基を中心に、洋風のデザインがされています。広場の名前は「はとほっと」。災害に對してほっと安心できる広場、道行く人々がほっと一息つける広場、人々が集まってイベントなどが行えるホット（温かい）な広場にしたい、といった願いが込められています。



電話ボックスも設置。利用者が後を断ちまてん。



まちづくり情報だけでなく、商店街や区のパスターも貼られる掲示板。



中心はや、ぱり路地尊茶5号基。隣りの駐車場の屋根から雨水をいただきたい。タンクは3つ。

賑やかに完成祝賀会

5月16日(土)には整備工事完成祝賀会が行われました。担当理事さんや鳩の街商栄会の方々は朝から準備で大忙し。その甲斐あってか、時折パラついていた小雨も祝賀会の間だけは小休止。商店街らしく様々なイベントも用意され、大勢の人が見守る中、区の助役さんやミスすみだも駆けつけて、賑やかな祝賀会となりました。

祝賀会はテープカットで幕を開け、同時に、空に向かってハトが放たれました。フライマックスは鏡割り。何ごとが始まったのかと集まってきた通りがかりの人々にもお酒が配られ、乾杯の声と共に完成を祝いました。

セレモニーに引き続いて、イベントが行われました。まず、地元の子供たちによるよしつね太鼓。威勢の良い見事なバチさばぎで打ち鳴らしました。それから、商店街オリエンテーリングが始まりました。これには子供たち約50人が参加しました。商店街の店を訪ね歩いて、スタンプを集めました。商栄会ではラムネや鉢植えの模擬店も出店して、祝賀会に賑わいを添えました。



安心できるおの町「三」の手をめぐって

防災まちづくり版

発行の一寺言問を防災のまちにする会

私がまちづくりスタッフです

その26

向島五丁目
高田弘さん
(一言会・理事)



昭和12年 文京区に生れる。結婚して向島に新居を構え、以来墨田区在住30年になる。職業は高田運輸㈱代表取締役。東京トラック協会、五丁目西町会、本所消防第四分団、隅田川ライオンズクラブ等、お役目を引き受け、会社で席を暖めている暇もない。

言問幼稚園の保護者会会長になったのが始まりで、言問小学校PTA会長、青少年委員と教育に徐々してきた。

一言会で検討している「三とも通りの整備」に関する担当理事会で、言問小学校周辺の道路を、電柱を移設して、「安全でゆったり歩ける道」に整備して欲しいと提案している。

「墨田区は大災害を二度経験している。ライオンズクラブで普賢岳に義後金を送っていますが、防災について、毎回言われていることだけれど、真険に考える時だと思う。安心して歩ける道路は、避難道にもなります。

向島の街には、路地尊がよく似合う。せびうちの町に、路地尊を設置したいですね。」背も高く、押出も立派な高田さん。お酒は飲めない。タバコも止めたそうで、潔外、品行方正な方の様だ。(純)

いちごことい 一寺言問/防災まちづくり瓦版

第28号 平成4年8月1日発行

編集/一寺言問を防災のまちにする会・編集局
高原純子・若木菊枝・植竹トモ
阿部羊一・明間 藤・中村淑子

編集協力/マヌ都市建築研究所

発行/一寺言問を防災のまちにする会・事務局

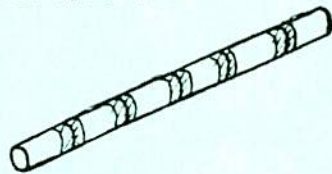
墨田区都市整備部開発促進室内
〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)1111

一言会では6月17日に担当理事会を開き、暫定利用の要望が受け入れられた報告を聞くと同時に、利用案について検討しました。その結果、リサイクル資源のストックヤードやリサイクルのイベントに使う他、まちづくりやリサイクル情報のパネル展示を行う広場としての、利用検討をしていくことになりました。

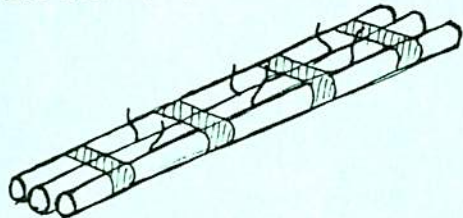
なお、塚本紙器跡地についても、近マフェンスの設置が行われる予定になっています。

○組み立て作業の流れ (350mlアクリル缶、高さ1.44mの場合)

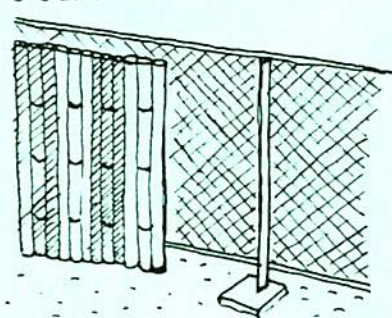
1.洗った空き缶12個を透明のテープでつなぎ、棒状にする。



2.ひもを挿み、テープで棒を3通にする。



3.缶の配色を考えながら、フェンスにひもで固定する。



寺島図書館前用地の暫定利用かなう

担当理事会では、広場の位置づけをアピールするイベントとして、広場に空き缶の塀をつくることを検討しました。高さ約1.5mに空き缶をつなげてフェンスに固定し広場を囲むのですが、必要な空き缶の数が約5千8百個。空き缶の収集と塀の製作にかなりの時間と人手が必要そうだと、ごんごんというかなうのかまず自分たちで一部つくってみようという方針になりました。

■広場に空き缶の塀をつくる！

一寺小で空き缶の塀作成開始！
クラスで空き缶のリサイクルに取り組んでいた一寺小の先生が、地蔵坂通りの取り組みを聞いて、「これは面白い。クラスで集めた空き缶で試してみよう」と、7月4日に、その試作に取り組みました。空き缶で富士山を描こうと子供たちも意欲を燃やしていました。



